

発行
大分県議会県民クラブ
大分市大手町 3-1-1
TEL: 097-506-5088
FAX: 097-538-0136
<https://kenmin-club.com/>

題字: 草刈樵峰

おけのこ

振り返る2023年

1月

▷大分政経懇話会「2023年の経済展望～どうなる景気と物価」(共同通信社経済部長 春木和弘氏)、ホーバークラフト旅客ターミナル起工式(大分空港側)

▶大分県東九州新幹線整備シンポジウム

大分県は東九州新幹線と豊予海峡のどちらを望むのか県民全体で議論すべきとの意見が示される。大分と博多を結ぶ新ルートも提案される。



2月

▷大分政経懇話会「地域の足・大分の鉄道は今後どのように変わっていくのか」(鉄道ジャーナリスト 梅原淳氏)、連合大分「政策制度委員会・議員懇談会」、第1回定例県議会開会

▶知事による当初予算案説明

広瀬知事(当時)による最後の当初予算案が各会派に示される。骨格予算とは言え、コロナ対策や防災・減災対策、子育て支援等の喫緊の課題に対応した内容が盛り込まれる。



3月

▷連合大分春季生活闘争総決起集会

▶春闘街頭宣伝行動(大分駅前)

日本の賃金水準は先進国の中で低位にある。最低賃金の平均額はオーストラリアの半分以下。長引くコロナ禍、物価・エネルギー高のなか、世界に遅れることなく賃金引上げを実現しなければならない。



4月

▷共生型地域づくり勉強会

▶第94回メーデー大分県中央大会

4年ぶりの屋外での開催。スローガンは「支え合い・助け合う社会をつくり、くらしをまもる!笑顔あふれる未来をめざし力を合わせ、ともに進もう!」。



5月

▷内外情勢調査会「岸田政権の課題と日本政治の行方」講師: 政治アナリスト 伊藤惇夫氏、大分県議会第1回臨時会、おおいたホームタウン推進協議会、豊府校区防災士協議会総会

▶第42回 地方×国 政策研究会(東京都議会)

昨年4月の地方自治法改正を受け「市民自治を基本とした地方行政・議会のあり方」、物議をかもした「紙保険証の廃止とマイナンバー制度のこれから」について研究を深める。



新しい年の幕が開けました。旧年中に賜りました皆様からの心温まる御支援に心から感謝と御礼を申し上げます。

コロナ禍から四年が経ち、ほぼ終息に向かっているとは思いますが、しかし「終息宣言」が発表されない現状、まだまだ不安を感じます。百年前のパンデミック「スペイン風邪」が終息するにも、約三年が掛かりました。その後、医療・科学はかなり進歩してきたと思いますが、ウイルスの脅威は凄まじいものです。

天へ昇る龍の如く
勢いよく発展する年



二十年ぶりに知事が交代し、佐藤知事のもと、県長期総合計画の策定に向けた議論が進められています。本年中に県人口は一〇八万人を割り込む見通しです。県が二〇一五年に策定した人口ビジョンを上回るスピードで人口減少が進んでいます。

佐藤知事は、「安心元氣」、「未来創造」の大分県づくりを目標に、本年秋の定例県議会でも新たな長期総合計画を策定する考えです。これまでの大分県版地方創生総合戦略の取組において、「何が良くて何が不足していたのか」を具に検証し、私なりの意見を述べていきたいと思っています。

今年の干支は「甲辰」(きのえ・たつ)です。「甲」は十干の一番目で「物事の始まり」、「辰」は「万物が成長し動きが盛んになる様子」を表すそうです。「辰」は「龍」にも通じます。「昇り龍」の如く勢いよく発展する大分となるよう本年も全力で頑張つて参ります。

結びに、新年が皆様にとつて素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

二〇二四年 元旦



■ 発祥の地・大分で43年ぶりの開催

本大会は、水産資源の保護・管理と海や河川・湖沼の環境保全の大切さを国民に広めるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて水産業の振興と発展を目的として毎年開催されています。

第1回大会は、1981年に皇太子同妃両殿下をお迎えし、鶴見町(現:佐伯市鶴見)で開催され、本年11月10日に2回目の開催をする運びです。

■ 豊かな水産資源に恵まれる大分

大分県は、豊前海や別府湾や豊後灘など多様な漁場で構成され、全国の高級ブランド魚の先駆け「関あじ関さば」をは

じめ、「城下かれい」、「姫島車えび」、「かぼすぶり」などの魅力あるブランド水産物が多く存在するなど、複雑な海岸線により多様な水産物に恵まれています。

■ 豊かな海を次代に引き継ぐ

しかし、近年の気候変動等の影響から、水産資源の減少が続く一方、漁業の担い手不足など、水産業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

大会の開催を通じ、本県の豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守る事の大切さを広くアピールしましょう。



至福の旅!
大吉の旅!
福岡・大分

／福岡・大分デスティネーションキャンペーン／

Destination (目的地・行き先) と Campaign (宣伝) を合成した造語で、地元自治体と観光関係団体、事業者等とJRグループが協力して実施する国内最大規模の観光キャンペーンで、大分県では9年ぶりの開催となります。

コロナ禍の終息を見据え、「観光産業の復活」と新たなステージへの挑戦「福岡・大分連携」による感動の最大化「地域の魅力再発見と愛着を育むおもてなしの実現」を基本方針にキャンペーンが展開されます。

キャンペーン期間は4月～6月。観光立県おおいたの再生を期待します。

6月

▷大分政経懇話会「映画を早送りで観る人たちに本の魅力は伝わるのか？」講師：キネマ旬報社 稲田豊史氏、連合大分「拡大政策・制度委員会」

▶県議会常任委員会県内所管事務調査

今期は、文教警察常任委員会に所属。これで6つの常任委員会すべてを経験。県内各地の教育事務所や学校施設、警察関係の施設を調査。(写真：県警鑑識科学センターにて指紋採取を体験)



7月

▷NPO 法人大分市日中友好協会総会、第2回定例県議会開会、第63回地方自治研究大分県集会(竹田市)、大分政経懇話会「岸田政権の課題と政局展望」(政治解説者：篠原文也氏)

▶2023連合平和行動 in 大分

ウクライナ紛争や東アジア地域での緊張の高まりを背景に、政府は「反撃能力」の保持に舵を切る。戦争を始める事より、平和を守ることの難しさを街頭から訴える。



8月

▷SAGA2024 ライフル射撃競技会の開催に向けた佐賀県知事訪問(由布市役所)、防災気象講演会(J:COM ホルトホール大分)、2023連合大分平和の夕べ・原爆パネル展、第2回定例県議会閉会、大分みなと祭り(大分港大在埠頭)

▶夏休みは県議会へ行こう!夏休み子ども議会見学
県内各地の小学校の5・6年生が参加。「学校に秋休みをつくってほしい」など、子ども達から次々と要望や質問が投げかけられ、議員が答弁に苦勞。



9月

▷第76回大分県民スポーツ大会(別府市)、大分政経懇話会「AIのいま チャットGPTのいる日常」(福知山公立大学副学長 西田豊明氏)、第3回定例県議会、大分県議会都市政策研究会(大分市長との意見交換)

▶大分県戦没者追悼式(別府市・ビーコンプラザ)

終戦から78年を迎える。昨年は4年ぶりに通常開催。本県所縁の4万4千人を超える御霊に哀悼の意を捧げ、平和の尊さ大切さを改めて心に刻み込む。



10月

▶ツール・ド・九州2023(日田市)

本年度が第1回目の開催。福岡～熊本～大分ステージで連続4日間となる超ハードな競技日程。地元チーム「スパークルおおいた」も世界のトップクラスの選手を相手に激走。



▷OITA サイクルフェス、大分市立豊府小学校開校50周年記念式典、宗麟公まつり・大友氏遺跡フェスタ、かごしま国体(鹿児島市)、認知症の人と家族への援助をすすめる全国研究集会(高松市)、森林・林業・林産業活性化九州大会(熊本市)

11月

▷有害鳥獣捕獲システム調査(嬉野市)、こうざき校区福祉健康フェスタ、地域課題研究会 in 豊後大野市、大分大学ホームカミングデー、大友氏顕彰フォーラム(大分市、津久見市)、議会運営委員会県外調査(東京都、神奈川県、茨城県)、全国農林水産物直売サミット(宇都宮市)

▶全国豊かな海づくり大会1年前プレイベント(別府市)

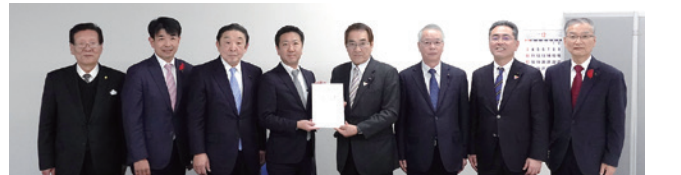
第1回大会は大分県が開催地。気候変動の影響で、獲れなくなった魚種もあれば、逆に獲れない魚が水揚げされ、獲れる量も激減している。(別府湾へ鯛の稚魚を放流)



12月

▷第4回定例県議会閉会、大分県飲酒運転根絶フェア

▶NHK大河ドラマ「大友宗麟」の誘致に向けた要望
西欧文化へ目を開き特色ある活躍を見せた大友宗麟ほか立花宗茂など魅力ある武将を大河ドラマ化していただくよう、議長・副議長、会派代表有志と大河ドラマ推進協議会の牧会長とでNHK大分支局長へ要望。



2023年第4回 定例県議会 一般質問・答弁

詳細はHPから [大分県議会](#) [検索](#)

県議会三期目を迎えた任期、初めての一般質問の機会を得ました。



〔質問項目〕

一、共働き共育での推進

① こども・子育て施策

② 男性の育児休業

③ 県立高校における生徒の昼食

二、大分空港の利用拡大

三、トラック運送業における価格転嫁

四、二酸化炭素の削減に向けた取組

① 廃食油の再利用

② 運輸部門における二酸化炭素削減の取組

五、大分市に対する県費補助金

一こども・子育て施策

木田 本県の人口ビジョンにおける合計特殊出生率の仮定値は二〇三〇年に二・〇程度となっていますが、昨年は一・四九と二〇〇七年以来、一・五を割り込み、大きく

乖離する状況です。

政府は、これからの六、七年が少子化傾向を反転できるラストチャンスと捉え、向こう三年間の集中取組期間において「加速化プラン」を実施するとしています。

こうした状況を踏まえ、本県の人口ビジョンの達成に向け、こども・子育て施策をどのように強化していくのか、知事の考えをお聞かせください。

答弁 まず結婚支援。出会いサポートセンターでは、今年度から企業を巻き込んだ婚活イベントを実施している。子育て支援では、保育料の補助など経済的支援の充実に努めるほか、妊娠と出産時の伴走型相談支援等も始めた。また、男性の子育て応援や職場の理解促進に力を入れ、男女が共に仕事と育児を両立できる環境づくりを推進する。

若い世代が希望どおり結婚し、安心してこどもを産み育てられる子育て満足度日本一の大分県づくりを進める。

県議会三期目を迎えた任期、初めての一般質問の機会を得ました。

県議会三期目を迎えた任期、初めての一般質問の機会を得ました。

一県立高校における生徒の昼食

木田 共働き世帯、ひとり親家庭の割合も近年増加しており、高校生のお弁当づくりが各家庭で大きな負担となっているとの声が聞かれます。

こうした中、スマホのアプリで注文するデリバリー式の弁当がスクールランチとして利用できる学校が他県ではあるとのこと、生徒やご家庭にも大変好評のようです。こうした仕組みを活用し、生徒の昼食を調達しやすくする環境整備を行ってはどうかと考えますが、教育長の考えをお聞かせください。

答弁 議員ご指摘のように、保護者の早朝の弁当作りは

もとより、パンのみを食す生徒がいるなど栄養バランスに偏りがあることも懸念される。ご提案いただいたアプリの利用については生徒や保護者の選択肢が増え、負担軽減につながるかと考える。保護者のニーズ等も勘案しながら、各高校が主体的に判断できるよう指導したい。

一運輸部門における二酸化炭素削減の取組

木田 近年では、ネット通販の利用が増加しておりますが、CO2削減の取組について県地球温暖化対策実行計画では「宅配一回受取りの取組促進」の項目が示されております。

現状、宅配ボックス・置き配バッグが広く普及しているように感じられます。大分市では、「宅配ボックス設置費補助」の制度を設け普及に努めており、大変好評のようです。

こうしたことを踏まえ、宅配の再配達削減も含め、運輸部門における二酸化炭素削減に向け、県としてどのように取り組んでいくのか生活環境部長にお伺いします。

答弁 ネットショッピングの普及により、再配達の増加が新たな課題となっている。令和三年度から二年間、置き配バッグによる再配達防止の実証事業に取り組みしてきた。実証では、延べ八百世帯が参加し約八割の方が再配達の削減につながったと回答するなど効果があると認められた。現在、市町村と連携して各家庭への普及を目指している。



竹の子記

上野の国立科学博物館に「46億年の散歩道」というコーナーがあります。地球誕生後、生物や人類がどう進化してきたかを、地球の歴史46億年を24時間に変換した時計型のパネルで紹介しています。地球誕生を午前零時零分として、午前4時には最初の生物が誕生します。それから16時間以上経った20時40分に魚の祖先が誕生。その後、両生類、爬虫類、ほ乳類へと進化し、人類が登場するのは、23時58分43秒のことです。そして、人類が農耕を始めたのは23時59分59秒。僅か1秒で人類はスマホを手にし、宇宙空間へ飛び出すに至る。文明科学の驚愕的な進歩を遂げました。▲その過程のなかで、人類は気候変動、戦争や貧困など様々な困難に直面してきました。現状のままでは、地球上で安定して暮らし続けるのは難しいとの危機感から2015年にSDGs(持続可能な開発目標)が国連総会において全会一致で採択されました。▲地球の持続可能性を追求することは世界共通の課題です。さりとて、石器時代の暮らしに戻るのも難しいでしょう。自然と文明の調和をとるために人類が何をなすべきか、地球が問いかけています。



**公式LINEはコチラ**

木田昇の議会・政務活動を随時更新中。



ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！
*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。

県民クラブHPはコチラ
<https://kenmin-club.com/>

